

令和7年度 第1回さいたま市民大学運営委員会 議事録

1 開催日時

令和7年7月24日（木） 午前10時から午前11時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

3 出席者

〈委員：11名〉

- ① 山中 淑子 委員長
- ② 秋本 創 副委員長
- ③ 小澤 千佳子 委員
- ④ 川又 伸彦 委員
- ⑤ 黒金 英明 委員
- ⑥ 佐藤 重房 委員
- ⑦ 佐藤 美子 委員
- ⑧ 関根 広美 委員
- ⑨ 多田 宏美 委員
- ⑩ 富岡 泰夫 委員
- ⑪ 水町 浩之 委員

〈事務局：7名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 杉本 達洋
- ② 副館長 大城 冬樹
- ③ 主幹兼事業・企画係長 山田 浩行
- ④ 事業・企画係主査 三好 七月
- ⑤ 事業・企画係主事 小暮 裕貴
- ⑥ 社会教育指導員 渡邊 京子
- ⑦ 社会教育指導員 永井 紀美子

4 報告事項

- (1) 令和6年度さいたま市民大学実施結果について
- (2) 令和7年度さいたま市民大学実施状況について

5 協議事項

- (1) 令和8年度さいたま市民大学各コース（案）について

6 その他

(1) 運営委員会等のスケジュールについて（予定）

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 開会

冒頭、委員全員に委嘱状の交付を行った。

その後、委員長・副委員長の選出を行い、委員の互選により、委員長には山中冴子委員、副委員長には秋本創委員が就任した。

10 報告内容

(1) 令和6年度さいたま市民大学実施結果について、事務局から資料1を基に説明。

以下、質疑等の内容

水町委員	アンケートの選択肢とパーセンテージの出し方はどのようにになっているか。
事務局	アンケートの「学びや気づき」の評価は4段階で、「大いにあった」、「あつた」、「少しあつた」、「なかつた」だが、そのうちの上2つ「大いにあつた」、「あつた」の合計でパーセンテージを出している。 「満足度」のパーセンテージについては、「講座の内容はどうだったか」のうち、上2つ「満足」、「やや満足」の合計で出している。
佐藤美子委員	アンケートは全員から取るのか。
事務局	原則、最終日に参加者全員から取るが、子どもについては他の講座と同様のアンケートという形ではお願いしていない。そのため、資料1-1では子どもの講座は適用外としている。
佐藤美子委員	アンケートの回収率と方法はどのようにになっているか。
事務局	回収率は高い。講座の最後にアンケート用紙に記入していただいている。
川又委員	実受講者の39歳以下の人数は子ども向けの講座で稼いでいる感じがあり、それ以外では0人の講座もある。トータルでは目標を達成しているが、目標と実情の関係は少し検討する必要があるのではないか。
事務局	ご指摘のように、39歳以下には子どもも含んでいる。子ども以外の39歳以下を増やすように考慮しつつ講座の構築などお考えいただければと思う。
富岡委員	実質的な結果は資料1-1の表でわかるが、全体的なまとめや分析が文章でもあるとよい。コースについての意見やコメントを分析した結果は次の年度に活かせると思う。 また、倍率が極端に低いコースや、学びや気づきで80%を超えていないものについて、課題として文書で示してもらえば、次の企画への参考になると

	思う。
秋本副委員長	運営委員会で選んだ市民企画「大人のための金融リテラシー」講座が一番学びや気づきが少ないのは課題ではないか。学び、気づき、満足度が低い原因がどこにあるのか、団体を審査する際にどのようなところに気を付けて選考すればいいのか教えてほしい。
事務局	「大人のための金融リテラシー」講座については、内容が自分の思っていたレベル感と違っていたとの意見があったので、受講者を募集する際にしっかりと周知しなくてはならないと考えている。
小澤委員	市民大学は高度なものを提供するということだと思うが、子ども対象講座の市民大学における割合はどの程度と考えているか。
事務局	さいたま市もこどもまんなか社会の実現に向けて取り組んでいる。子ども対象講座は増やしていくべきと考えている。一方、今までどおり講座を受けたいという大人もいるので、バランスを考慮すると大幅に増やすのは難しい。
佐藤重房委員	令和6年度で、倍率が1倍を切っているのが18分の7で、4割弱くらいあるが、これを令和7年度にどう活かしたのか。
事務局	この後、7年度の講座について説明するが、前年度の総括を反映して企画した。
山中委員長	昨年度の運営委員会では、倍率が市民大学のニーズとどのように関わっているかを捉えるのが難しいということもあり、倍率というよりは様々な内容をどのように網羅するかに重きを置いて話してきたと思う。
関根委員	市民企画コースの団体を選考する際の基準をもう少し具体的にわかりやすくしていただけだとよいと思う。選考基準のあいまいさが、数字や市民企画への応募者のレベルのバラつきに影響するのではないか。
事務局	運営委員の皆様には、ぜひ市民目線や専門的見地からのご意見をいただきたい。講座申込倍率については、資料1-3の左上にあるように、アンケートによると市報さいたまで知った人が圧倒的に多いのだが、市報さいたまに載る情報が基本的にはテーマのみとなっており、そこに記載された文言が応募状況に影響していると思われる。 また、レベルに関しては専門性の高いものほど受講生の期待とのギャップが生まれやすいので、ご意見をいただければありがたい。

(2) 令和7年度さいたま市民大学実施状況について、事務局から資料2を基に説明。

以下、質疑等の内容

事務局	令和6年度と令和7年度の違いについてだが、生成AIコースは、若い方の参加を促すため、オンラインでの夜間開催で実施した。また、地域ボランティアコースは、令和6年度はパソコンのボランティア講師養成講座であったが、令和7年度は日本語ボランティア入門講座に変更した。
佐藤美子委員	39歳以下の受講者人数の目標を達成するために、ターゲットとした講座はあるか。

事務局	生成 AI、IT スキル、パソコンコースの一部など、若い方をターゲットとして企画した講座は、「抽選の場合は 39 歳以下の方を優先」とし、参加を促している。
佐藤美子委員	現状では、高齢者が参加しやすい時間帯や講座内容が多く見受けられる。39 歳以下の参加者数を目標として掲げるのであれば、企画段階からターゲット層に適した講座内容や開催時間を検討する必要がある。
黒金委員	令和 7 年度のオンライン開催はとても良い。平日昼間の開催だと、固定の年齢層が中心となりがちである。より幅広い年齢層に受講してもらうために、テーマや内容に加え、手法を含めて広く検討していく必要がある。
事務局	各年齢層で参加しやすい時間帯がある中で、オンライン講座は有効であるが、現在、市民大学で利用しているオンラインシステムは同時接続 100 名までが上限となっている。
事務局	さいたま市総合振興計画という市の最重要の計画があり、その中で 39 歳以下の目標設定がある。一方で、市民大学であるので、年齢層を問わず市民にくまなく学びの場を提供していかなければならない。ご指摘の通り、現在設定している開催曜日や時間帯は固定層になりがちであるので、オンライン開催や曜日・時間帯の工夫、刺さる文言での広報など工夫の余地がある。 アンケートによると圧倒的に市報という紙媒体がメインとなっているが、最近は市民アプリの中で、プッシュ通知から辿ると細かい内容まで知ることができる。その中で市民により興味を持ってもらえる表現・ワードを散りばめるなど工夫していく。必要に応じて委員の皆様からご意見を頂戴したい
川又委員	放送大学でも対面授業の学生集めは課題となっている。シラバスは公開されても学生は読まず、科目の見出しだけで選ぶ。要するに科目名で興味を持つかどうかが決まる。 市民大学の令和 6 年度と令和 7 年度のテーマを比較すると、7 年度はキャッチーな文言に工夫されていてよいと思う。今後もこのような表現を継続していくとよいと思う。 放送大学は土日に開講の科目が多い。市民大学でも土日の開講も検討したほうがよい。 令和 7 年度の環境・交通コースは、対象が小学 4 年生以上とあるが、平日の金曜日に設定されている。どのような意図か。
事務局	環境・交通コースの日程は、埼玉県民の日で、学校が休みとなる日に開催を予定している。

1.1 協議内容

(1) 令和 8 年度さいたま市民大学各コース（案）について、事務局から資料 3 を基に説明のち、協議。

以下、質疑等の内容

水町委員	時間に限りがあるので各委員の案を事務局にメールで送り、集約してもらうことは可能か。
事務局	可能である。
水町委員	市民としては、39歳以下にターゲットを絞ることそのものに違和感を覚える。40代50代という生涯学習が本当に必要な世代も含めて、参加しやすい開催時間・曜日を検討していくべき。平日を前提とした枠組みの中で議論をするのは難しい。令和8年度で難しければ、9年度での実現に向けて検討していただきたい。また、1コースの多数回開催を求めるニーズもあるのではないか。1コースで回数を増やすことができるのか、あるいは未定コース2つを集約して全6回コースにすることができるのか、ご意見をいただきたい。
事務局	未定コース2つを合わせて、回数を増やしたコースの設定は可能である。
佐藤美子委員	資料3や別表に当てはまらないテーマ案でもよいのか。
事務局	今回の資料で例示させていただいたもの以外のご意見も頂戴したい。
富岡委員	令和7年度教養Iコースのように、倍率も満足度も高く人気のあった講座はアップグレードさせて、令和8年度にも開催してもよいのではないか。講座の進め方については、対話型講座や、次の学習や行動に示唆を与えるような講座手法を取り入れてもらいたい。また、オンラインだけでなく、サテライト実施を検討いただきたい。 未定のテーマについて、大人の探求型学習を取り入れるのはどうか。探求型学習によって、新たな知見を得て自ら次の学びに生かしていくことができるのではないか。探求型学習については、図書館司書が詳しいのではないか。
事務局	ニーズの高かった講座について、次年度にアップグレードしての開催は可能である。 対話型学習については、令和7年度の地域ボランティアコースが、ワークショップを取り入れた対話型学習であり、受講生がボランティア活動に踏み出すきっかけづくりを念頭に置き開催した。満足度が高く好評だった。 サテライト開催、探求型学習についても検討していくたい。
秋本副委員長	オンラインの他に、アーカイブ講座実施の可能性はあるのか。
事務局	アーカイブについても検討していくたい。
山中委員長	資料3の枠組みは固定なのか。未定コースのうち、1つは必ずオンライン開催なのか。
事務局	オンラインコースは、1つは開催を必須としたい。各コースの枠組みは必ずしも固定ではない。
事務局	事務局から事務局への質問となるが、図書館との連携コースは、文学縛りなのか。富岡委員よりご意見をいただいた探求型学習に関して、学校図書館司書に触れていただいたが、情報リテラシーという重要なポイントについて、まさに図書館司書が自分の知見を通じて正しい情報を市民に知らせることを日々行っていると聞いている。図書館だから文学コースであるという枠に囚われず、コース内容を検討していくことは可能なのか。
事務局	令和8年度については、既に図書館から提示されている講座案があることか

	ら、調整をしながらとはなるが、今後、今回のご意見が反映できるか更に話をしていく。
--	--

1 2 その他

令和8年度運営委員会等のスケジュールについて、事務局から資料4を基に説明。

1 3 閉会